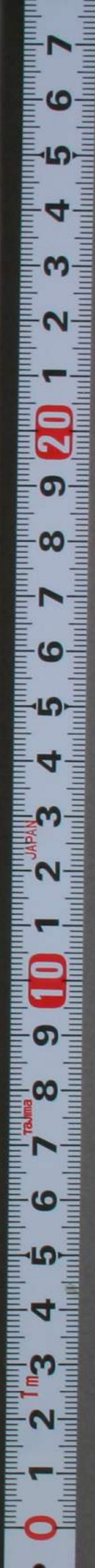


大西園府 卷六

洋学文庫
文庫 8
F 2
4



從第百六
至第百四十四

大西園府

卷之六

第六百

一

橋梁欄柵等は用ひる鋸解木材にて造れる欄
干



二号、三号、四号、

列柵道の末或ハ牧場の口等に設くる柵門其
廣ク車馬を容るゝ子是るべし

六号、七号、

度子設くる小柵門

第七飯

仙窟又農家閑寂の處に設くるべし

一号

庭下の甬道其前面開敞し上は屋あり

二号

切葦

三及五号横は屋を切削しある圖

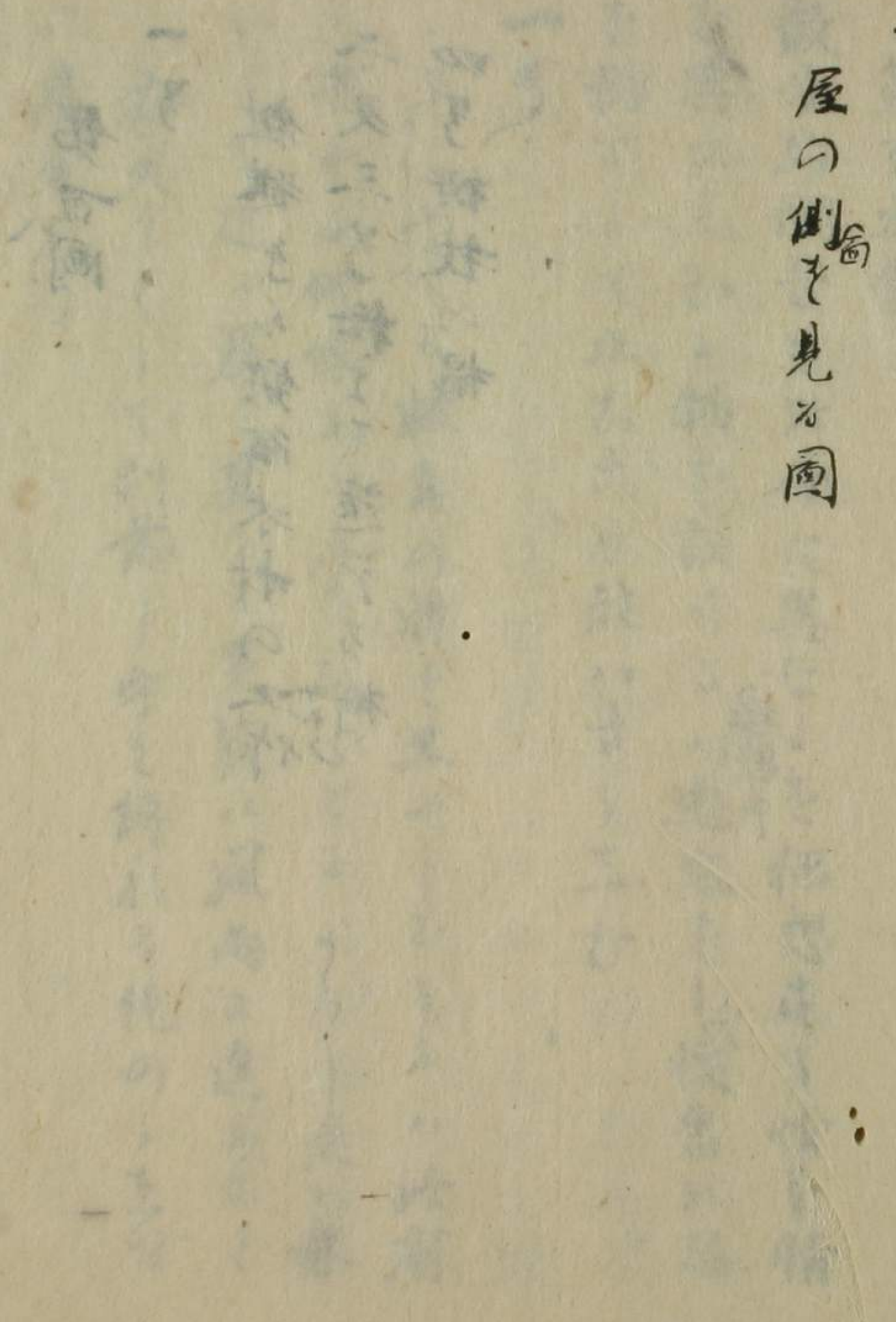
四号横に屋を切削しある圖

四号

縦に屋を切削しある圖

六号

屋の側を見たる圖



第百八圖

一号

粗継ぎの釘解木材の工作

二及三号 材より造れる橋

四号 樹枝の榻

第百九図

散歩此間昔日此今に異なりを遐想あり 緬想此の情も情
を興寸志ある物を説くは遊客を懐奮然思
を動可して止む此と能ハすこと
一号

上より言へる懐奮の情を生せしむるは此廟
堂中より佛像ある者を説くよりより一室ハ米
子て造る屋を葺くは茅萩ハ風雨又造る此と
歳久しくして剥落し宇を縛れる繩のよき
半は残れり

二号

地基

第一百十叙

古きゴッケス風の廟堂

此廟堂ハ木屏上に画きて甚好一殊に此堂を二
三株の古木の前の好距離に立つる時ハ尤妙な
り行歩を其距離に導額をもうけ如く見ゆる牆
内ハ接骨木等を栽ゆべし
往古の寺院の趣を存せんと欲せば飄經奏採の
處を東方に造り前面を西に向ハルむべし

第十一級

木屏上より画りたる既入多風の情景
二号

水閣を屏障とするたゞの画板、閣後の水多きと
きハ二竇を桶籠の如く画き其内より水を澗
出さば

三号

五箇の柱ある橋

第一百十二級

水景

以符ハ園池の入口

以符ハ小高處に數脚の榻を置く所

以符ハ兵松檜を植ふ

以符同上の樹を植ふを兵歩して其上を越る

保白楊を植たる丘

邊符ハ *Prunell laurifolia* の林

登白楊の林

知符ハ島上の殿堂

〔判〕^符松梅を植ゑる風景
〔奴〕符ハ喬木

第百十三級

一 号

小な避暑此別館小園荘に設多し
四廡此下に甬道あり文糸多し八柱を支ふ半
圓よりして斜に三分一ぬる簷上の格子を入れ
て廡上に床を屋ハ茅葺にて葺くをれを造る
ハ風景洞達豁開せる處を計佳とす

二 号

筒朴多し小房

三 号

食卓

四四号

榻

五号

椅

第百十三飯

額屋

寛を屏^カ上^ニ設^テ水^ヲ屋^上引^キ瀑^ト布^ト為^リ
 下^ニ落^ル来^ル一^ツむ^レ礼^ハ風^景の^妙い^ふべ^ク可^ク也^ト知^ル
 ル^テル^ラン^ド和^蘭國^ノの^よハ^處々^ニ是^ノ如^キ
 風^景を^設る^に便^カル^地形^有り^他處^ニ於^テ此^ノ
 景^趣を^造出^セん^トモ^クハ^大槽^中に^水を^湛
 へ^用ひ^人と^飲も^ろと^モあ^れを^流さ^べ

第百十三飯

第百十五叙

小多々別館雅潔簡易を以て人意に遠き

第百十六叙

圓堂の樓あり者下層ハ區一て三室を分つ其一ハ厨房とも上ハ二室に分つ上層ハ三箇凹圓の處あり各二柱を支ふ前面のハ鉄欄あり故に三箇の戸ありありて通氣を
通暢と
イリクテ

第百十七叙

魯西亞よて用かる輪轉篋裁每篋端ハ籃あり每
篋二人を座を同一く上天下地の樂を專く三人
ありて此機を旋轉するに力を勞ヤせしめて疾徐
意の如くあるべし

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

第百十八叙

田舎の建築夏日納涼の處とあり此屋ハそれ
の上子造り園中の佳景を宇窿屋中より一目に
臨眺せしむ其亭勝りありあり

其造法ハ至て簡約なり屋頂の帽を鋸解を徑と
す木籠上に安き下部ハ天然の木及鋸解木材を釘
貼して成る各柱の周に苔苔あり花を栽へ或ハ
花枝をトハル扎糸住せ

第百十九叙

ゴッホス風の園殿外に短牆を圍し又ゴッホス風
の擬す可て牆の每角に石の蘆簷の類を置く
此殿を必らず石にして造るを要せざるに
てハ美麗にして乾き直なり水を入る好き
green half して造る朱色して古石の如
く画くべし周牆ハ赤黯色の石あり造るへし

第百十九叙

第百二十叙

水景

此景ハ前丹第百十二叙の如き地差り造りて
宜しと云れども此景ハ某家の好まて已に
出れを造り出せり

〔沢〕符ハ水景の入口

〔宮〕符ハ惣所

〔波〕符ハ橋兩丘に跨る覽者橋底を洞視せん

〔仁〕符ハ高山上にある殿堂

〔保〕符ハ惣所地面低くして水に近し

〔邊〕符ハ水邊の惣所

〔正〕符ハ松檜を植へたる高阜

〔知〕符ハ諸種の灌木林を成せる處

〔利〕符ハラウリールスバル^ンの樹名松檜の林

全地景漸を以て高低して平坦の地とす

第百二十一叙

一号

漁家

其
屋角に老木を植へ景を添ふ新なる木材の間に古木板を貼り柳枝を編んで此家を造る是を造るに俵を束ハ島端上或ハ唐洲なる池水の岸もを構ふべし

二号

地基

是れを照して其地の造建の状を考ふるべし

第百二十二叙

一号

奇偉なる小殿堂四方開敞壁あり水を隔てく緑樹数章疎密畫のぬき者の下に造りて尤佳

二号

地基

意を随て増減して可なり

許方三院跡一室あり大木あり庭中木植あり
第百二十一叙

第百二十三叙

椅子三脚^木榻一座^{粗縫}皆天竺の鋸解木材にて造る其
椅子ハ木材を稍方形に修むべし

二

第百二十四叙

園を脱す

一

支那風の小家假造岩石にて支不岩を越えて
家ありる道あり書

岩石ハ巖集せる消煉瓦石を高處^懸倚て堆積せ
べし其餘ハ草木を植へ岩上を越へ遊人家
に至れば佳勝の景を眺むべし

二

高雅なる古風の建築

三

三 池畔ある木にて造れる倉庫

第百二十五叙

類落せる和葉の小造築、平板上より画く小室一

此屋の半面を掩翳せる緑樹ハ葡萄蔓常春藤

連銭草^{カキドウシ}及其餘の諸種の蔓草を栽れハ最徳く

人目を眩亂せ

第百二十六飯

画のめき美蔭の下に建多る墓表

第百二十七飯

新製地基の一半

〔土〕符ハ水邊樹下の惣所

〔廻〕符ハ小高處

〔利〕符ハ惣所

〔奴〕符ハ大高所、上子祠堂あり

〔圖〕符ハ惣處

〔遠〕符ハ島、島上子人造岩あり、瀑布瀉下キ

〔和〕符ハゴケス風の建築

〔加〕符ハ島上の島築

奥筈ハ一隅の園房
大筈ハ草樹園

二百二十ハ飯

前園地基の一半、但し前園とハ自風趣を異に以

以筈ハ家

豆筈ハ子房
コサキ

波筈ハ橋

仁筈ハ園吏の住處

保筈ハ高樹を植多草原

邊筈
脱して
説ふ

二百二十五

第二十九段

別荘小庵、亞麻布の幔舎を造るハ切要の事ある
を除く外、前面の幔舎の状を成し布を張り
て多くの地面を占むる事あり

上に言へる事情と且尋常の用法と稍異なる故
を以て自在移るべき小亭を掲載此亭ハ容易

卷舒そがー

一号

天蓋を上り伏視する圖

二号

三号

木骨の架起

幔舎小全く麻布を帽もろ天蓋の布ハ預

合もろに宜し其周圍ハ釘眼と釘鉤を備へる

る木杆の多少上随ふ

石の周圍ハ色布を縫着そがー

窓格ハ絲網を以てハ線索を張りて擬造する

四号

鉄鉤を以て木杆を架し起る状を視る

第百三十版

一 園空其前ハ開き餘ハ鋸解木材に小片板を釘着し
一 園のめく^孔隙格眼より外景望見をばし

一 号 扉下三子一枚

二 号 奇異多々小屋榎板にて造る

地 基

三、四号 彫^繪画を加へしる木材より造る小房

五号 橋其欄干ハ木材を梳篋し常春藤を攀縁せしむ

第百三十二段

橋上の園亭橋下の石解木柵を以て障隔する可
故に小艇を容る可と敷く又魚獄と成し用ゆ
べし園亭上より眺む所の水ハ小イケス
ありしとて小ハ眺望殊に清雅を覚ゆ

第百三十三段

画趣ある老屋蓋一室現にみれを造るもとを案せ
せるとて小ハ木扉上に画くべし

第百三十四段

第百三十五段 甲
一馬 魯西堂の桔梗棹戲具
二馬 佳趣あり園橋
三馬 同上

小園庭の地基

〔返答〕八入口

第百三十二叙

橋上の園亭、橋下の石解木柵を以て障隔をもたす可
故に小艇を容多し、所と趣し又魚獄と成し、用ゆ
べし、園亭上より眺む所の水ハ小イケス、可く以小
るゝと、さしハ眺望殊に清雅を覚ゆ

第百三十三叙

画趣ある老屋、^現實にみれを造らざるを、字を
さると、さしハ木屏上に画くべし

第百三十四叙

園中の造築、みれを園中に造らざる趣ありとせしむ

第百三十五叙

小園庭の地基

〔巡管ハ入口

〔宮〕竹ハ高處上に座所あり一樹其上を蔽ふ山
の四面ハ蒼麦賦ハ他草を蒔く

〔波〕竹ハ橋

〔仁〕竹ハ小島

〔保〕竹ハ小祠堂

第百三十六級 同を脱す

二箇の小多々地基

一号

〔以〕竹ハ喬木を柱ハ且中草野花を帯る灌木を（剪り）
修（見）

子多々（草を植む）野

〔昌〕竹ハ菓木

〔波〕竹ハ花木を蔽へる想所

〔仁〕竹ハ小房

二号

〔以〕竹ハ柵林後の座所

〔昌〕竹ハ花魚の景

〔波〕竹ハ花を若る灌木

〔仁〕竹ハ菓木

〔保〕竹ハ座柵

〔邊〕皆ハ花を蔽へる想所
〔正〕看木ある草野下に座榻を置く

第百三十八七 敎

古今ノ風出建築

此建築ハ平板上に画起て甚好し其板を一棊縁
樹此對して新欄那ハ牧野若くハ田畝亦地に
對し設けり可なり
善し實に此屋を造りハ園吏馬居既等に完て可なり

第百三十八 敎

一 号 鳥獸園

此建築ハ人意風流に適せ依るに造至然も簡朴
那亦一ノ前簷上に露棚あり以て其れ加飾と
那志茅葺き以て屋を葺く
室中此區分ハ鳥獸を養育する多小に隨て區
劃せし
斯に奉左區分ハ陸鳥兎類を養育に宜し
〔以〕號小廳
〔區〕符ハ茶具を入る二小厨

〔波〕符ハ鳥獸の夜宿する處

〔仁〕符ハ鳥獸の餌食及水を盛る二槽

〔保〕符ハ卵を孵化する時入孔置罫

〔遠〕符ハ白兔の籠

〔正〕符ハ芝罘の尤名は在る開故せる處

〔多〕水鳥を畜ふときハ尤名の前隅に小池を

鑿つべし

〔知〕符ハ雉の鳥に設くる一空

〔利〕符ハ餌食及水を盛る一槽

〔奴〕符ハ卵を孵化するとき入孔おく罫

〔留〕符ハ川に穴の籠

〔遠〕符ハ鳩及小島の籠

〔和〕符ハ穀槽水槽

〔知〕符ハ籠架

〔惠〕符 説を載せし

第百三十九叙

一号二号

殿柵の簡易なる圖

三号

八角亭其椽象壯大なる物者

第一百四十段

一
号

青果なる屋宇四周の柱圓の鯨骨を以て造る

二
号

老敷せる可如く造り出せる橋

第一百四十一段

一
号

花底の懸所鯨骨を支へて柱とす則蔓生の權

を裁由橋梁ハ不可動蛇殼の皮を嵌む

二
号

地基

第一百四十二段

一
号

支那風の殿を水邊の小高處に造るにふり

二
号

地基

第百四十三段

小なる英吉利風の園地也

〔波〕〔仁〕〔保〕〔遠〕〔正〕〔起〕該地の花木を栽る地

〔利〕竹ハ蓄薇牆

〔叙〕竹ハ花道の欄

〔留〕竹ハ起所、前に草野あり、松檜幾章を植

第百四十四段

城市内ニ設るに宜しき小園林の地是ニ園

一号

〔以〕竹ハ草野、裏に喬木を植、河隅ニ花壇を造

〔宮〕竹ハ幕室を結ぶ木

〔波〕竹ハ花下の起所

〔仁〕竹ハ起所

二号

〔以〕竹ハ松檜を後に帯多る庭所

〔宮〕竹ハ盆種の花を置き多る景

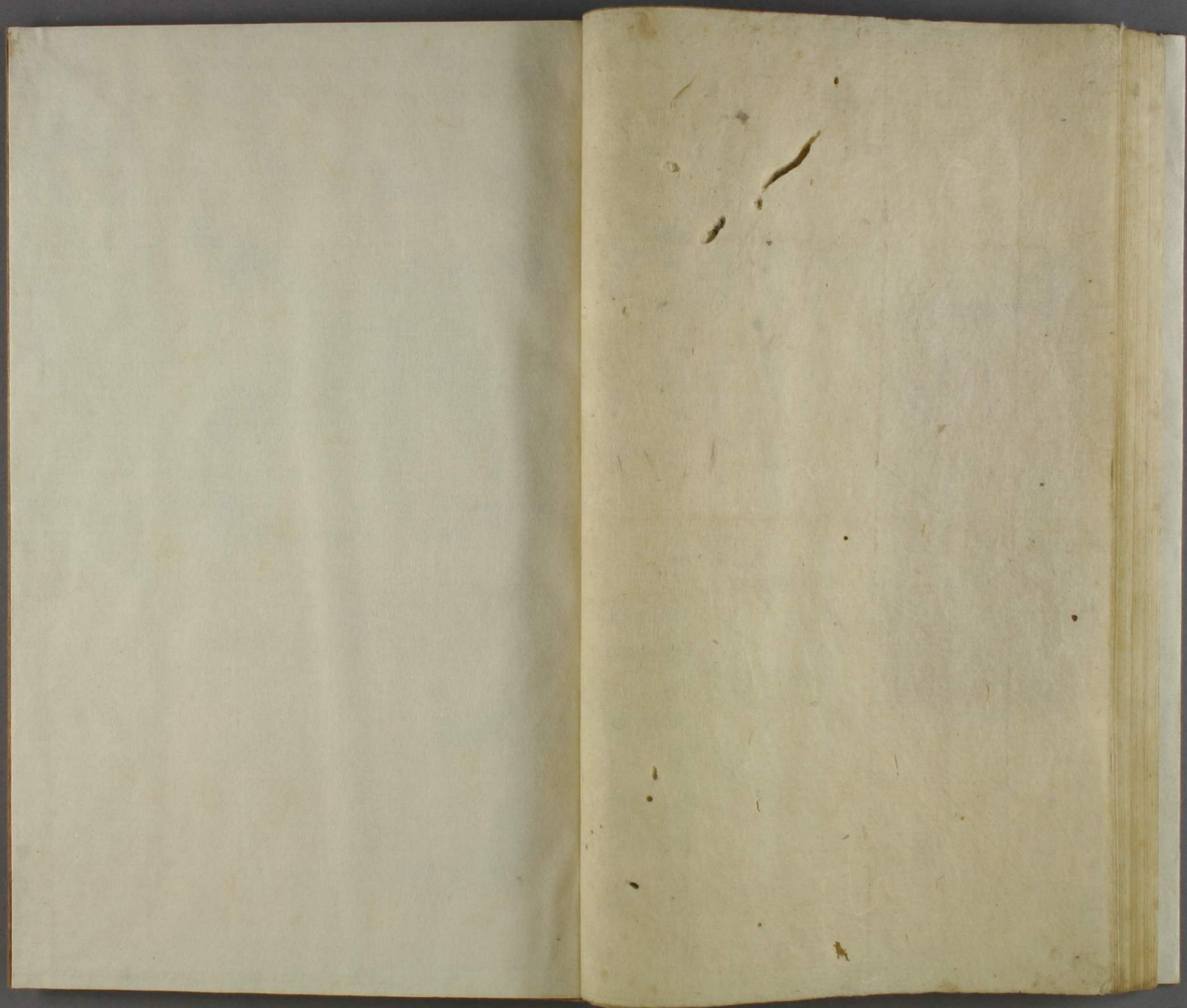
〔留〕竹ハ高き灌木

〔保〕竹ハ庭所

〔遷〕皆ハ花底の想研

正宵ハ窓樹蔭を成せり下ハ庭榻を設く

〔遷〕皆ハ花底の想研
正宵ハ窓樹蔭を成せり下ハ庭榻を設く





山方極多

而分多者相也

○ 先年 箕作 宇田川 身之

里田 是 上 獲 大西園 存 和 辭

下 案 稿 書

四冊 但 一 二 三 卷

及 冊 之 多

草 虫

四 冊

系 圖

一 袋